

30年6月分 木材チップの荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成30年 6月1日～ 30年6月10日

2. 調査実施方法

全国の木材チップ工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
6月分の回答企業数は11社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) チップ用国産原木の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		30/6月	7月	8月
入荷動向	スギ・ヒノキ	△ 11.1	△ 5.6	△ 5.6
	マツ	△ 30.0	△ 25.0	△ 25.0
	広葉樹	△ 22.7	△ 22.7	△ 13.6
消費動向	スギ・ヒノキ	0.0	0.0	0.0
	マツ	△ 16.7	△ 16.7	△ 16.7
	広葉樹	△ 10.0	△ 5.0	△ 10.0
在庫動向	スギ・ヒノキ	0.0	0.0	0.0
	マツ	△ 27.8	△ 27.8	△ 44.4
	広葉樹	△ 20.0	△ 15.0	△ 20.0

・チップ用国産原木の入荷動向はスギ・ヒノキ、マツ、広葉樹とも3カ月連続減少。

・スギ・ヒノキの消費動向は3カ月連続横ばい推移。マツ、広葉樹とも3カ月連続減少。

・スギ・ヒノキの在庫動向は6月の減少から7月、8月は横ばいに。マツ、広葉樹は3カ月連続減少。

(2) チップ用国産原木購入価格動向 Weight. D. I.

品目	30/6月	7月	8月
スギ・ヒノキ	22.2	16.7	11.1
マツ類	5.0	5.0	0.0
広葉樹	4.5	9.1	4.5

・スギ・ヒノキは強含み。

・マツ類は保合。

・広葉樹は調達が難しくやや強含み。

モニターからのコメント

(原木荷動き)

・今のところ仕入、消費、在庫とも変わらず（東北）。

・スギ・ヒノキ、マツ類は、バイオマス燃料へ原木が流れているため入荷減。マツ類は季節的要因もあり減少。広葉樹は天候に左右されるためやや減少。在庫はスギ5.0→3カ月、マツ1.5→0.5カ月、広葉樹2.5→2.5カ月（東北）。

・バイオマスに流れている関係から今後も針葉樹の入荷は少なくなると思われる（関東）。

・国有林からのパルプ材が徐々に出てくるようになった。大手製紙メーカーが定期修理に入ったが、原木は受け入れは継続している。製紙会社の受取りは安定している。

・全体としては荷動きは変動なし。しかし、近年製紙用原木の入荷が多ければ燃料用原木が減少気味で、また反対の傾向が荷動き動向である。消費は荷動きに追随し変動なし。在庫も変動なし（中国）。

・当月梅雨に入ったが天候も安定し、スギ・ヒノキの仕入、消費、在庫は3カ月連続横ばい（四国）。

・宮崎近郊からの広葉樹原木の仕入は困難な状態が続いている。広葉樹の安定確保が難しく消費、在庫は少ない状態が続いている（九州）。

(原木価格)

・変わらず（東北）。

・スギ・ヒノキ及びマツ類はバイオマス燃料との原木取り合いにより価格上昇。広葉樹は針葉樹の上昇に伴いやや上昇（東北）。

・原木価格は変化なし（中部）。

・スギ・ヒノキ、マツ類、広葉樹とも横ばいで変動なし（中国）。

・全樹種とも変化なし（九州）。

・広葉樹は横ばいで推移（九州）。

・

30年6月分 木材チップの荷動き・価格先行き動向調査 2

4. 調査結果の概要

(1) 木材チップの荷動き動向 Weight. D. I.

品目		30/6月	7月	8月
生産動向	スギ・ヒノキ	0.0	7.1	0.0
	マツ類	△ 25.0	△ 25.0	△ 6.3
	広葉樹	△ 11.1	△ 16.7	△ 16.7
出荷動向	スギ・ヒノキ	△ 6.3	0.0	△ 6.3
	マツ類	△ 25.0	△ 14.3	△ 14.3
	広葉樹	0.0	△ 6.3	△ 6.3
在庫動向	スギ・ヒノキ	0.0	0.0	0.0
	マツ類	△ 28.6	△ 35.7	△ 35.7
	広葉樹	△ 25.0	△ 18.8	△ 18.8

・木材チップの荷動き動向はスギ・ヒノキは6月の横ばいから7月は再び横ばいに。マツ類、広葉樹とも3カ月連続減少。

・スギ・ヒノキの出荷動向は6月の減少から7月は横ばい、8月は再び減少に。マツ類は3カ月連続減少。広葉樹は6月の横ばいから7月、8月は減少に。

・スギ・ヒノキの在庫動向は3カ月連続横ばい推移、マツ類、広葉樹とも3カ月連続減少。

(2) 木材チップ出荷価格動向(自社サイロ下渡し)W

品目	30/6月	7月	8月
スギ・ヒノキ類	0.0	0.0	0.0
マツ類	0.0	0.0	0.0
広葉樹	0.0	0.0	0.0

・チップの出荷価格動向はスギ・ヒノキ、マツ類、広葉樹とも横ばい。

モニターからのコメント

(木材チップ荷動き)

- ・スギ・ヒノキ、マツ類は入荷量の減少にともない出荷は減少（東北）。
- ・順調に出荷はしているが今後については原木入荷量によって針葉樹・広葉樹チップの比率は変わる（関東）。
- ・国有林から原木が徐々に出てくるようになり生産は順調背ある。大手製紙メーカーの定期修理があり、使用は止まっているが、ヤードに余裕があるので受入れは継続している（中部）。
- ・生産、出荷、在庫動向とも変動なし（中国）。
- ・製紙、ボード、燃料用とも生産・出荷は横ばい見通し（四国）。
- ・梅雨にもかかわらず全樹種とも入荷は良い状態。梅雨が明けると平常並みに入荷すると思われる。広葉樹はほぼ横ばいどおりに生産。針葉樹は製紙工場の機械の不具合によりやや減。在庫は全樹種少しづつ積み増しになっている（九州）。

(木材チップ価格)

- ・変わらず（東北）。
- ・価格は変更なし（東北）。
- ・広葉樹チップの単価については昨年5月に値下げがあり、その後交渉しているが難しい状況である。
- ・変化なし（中部）。
- ・スギ・ヒノキ、マツ類、広葉樹とも変動なし（中国）。
- ・全樹種とも変化なし（九州）
- ・広葉樹チップ価格は横ばいで推移（九州）。